



News Letter No. 30

今回は 2026 年 7 月 19 日(日)～20 日(月・祝)に行われた DC/TMD 認定セミナー2026 について、日本大学歯学部歯科放射線学講座の出澤 幸先生に報告していただきます。

**DC/TMD 認定セミナー2026 報告 (2026 年 7 月 19 日(日)～20 日(月・祝) 於：日本大学松戸歯学部)
【顎関節症の原因療法と対症療法 ～ブラキシズムへの対応から外科療法まで～】**

2026 年 7 月 19 日・20 日の 2 日間にわたり、DC/TMD 認定セミナーに参加させていただきました。参加前の私の中では DC/TMD と実際の臨床とは乖離があり、日常的な使用は難しいのだろうなと考えていましたが、今回のセミナーへの参加で DC/TMD への意識が大きく変わりました。

まず、このセミナーへ参加登録をしてしばらくすると、メール配布にて事前配布資料を送信していただきました。添付ファイルには DC/TMD のコマンド、診察用紙、日本語版の評価インストゥルメントが含まれており、コマンド (Word で 8 ページ) に関しては必ず暗記するようにとの注意書きがゴシックで記載されておりました。その他、認定セミナー申し込みからセミナー当日までの間に、持ち物や事前準備に関してなど事細かに連絡をいただき、無事にセミナー当日を迎えることができました。(コマンドに不安を抱きつつでしたが、)

19日は午前中に講義を行い、午後に DC/TMD のデモンストレーション、相互実習という流れで行われました。真夏の暑さの中、新校舎となった涼しい日本大学松戸歯学部で開催されたセミナーは、認定セミナー受講者 16 名、聴講 7 名の計 23 名の参加者でした。初めに小見山 道教授 (日本大学松戸歯学部) の講義から始まりました。「Introduction of DC/TMD」のタイトルで、DC/TMD の歴史から、顎関節症と口腔顔面痛とのかかわり、本コースの概要について細かく説明していただきました。日本で、日本語で開催されることのありがたみを大いに感じました。

続いて、島田明子教授 (大阪歯科大学) より、DC/TMD Axis I について講義をしていただきました。症状質問用紙・診察用紙・診断決定樹のそれぞれについて、その持つ意味合いや手順の説明とともに、診察用紙の記載方法に至るまで、細かく説明をしていただきました。また、実際の診察手順の説明をしていただくことで、事前資料で暗記を頑張っていたコマンドとの結びつきを感じることができました。触診時の指の使い方や、咀嚼筋の分割の仕方、触診は自分が感じていたよりも精密に行われており、その難しさは午後に行われたハンズオンで思い知ることとなりました。

講義セッションの最後に築山能大教授 (九州大学歯学研究員) から、DC/TMD Axis II について説明していただきました。代表的な精神疾患について実例を交えながら、説明をしていただき、日常臨床で感じたことのある患者の訴えと重ねながら納得して学ぶことができました。また、スクリーニングで用いる評価インストゥルメントの使用方法や使用上の注意点についてもお話しいただいた。患者の訴えに対して客観的な所見を得られない場合は、精神科や心療内科に依頼することを考える必要があり、その場合は丸投げにするのではなく、必ず自身でも患者の経過観察を行うことが必要であることを強調されていました。



午後には相互実習形式のセミナーが行われました。まずは、DC/TMD のデモンストレーションを島田明子先生にさせていただきました。実際の手順や、コマンド、診査のポイントを示していただき、前半に行われた講義内容とのリンクを行うことができました。その後、相互実習で検査用紙に乗っ取り一通り実習を進めました。その最中にも

講師の先生に指摘をいただくことができたり、疑問をぶつけることができたりと非常にありがたかったです。この時点で、自分の中では「何とかなるだろう…」と思っていたコマンドは、やはり非常に忠実に行われていることがわかり、「何とかしなければ…」と戦慄いたしました。筋触診に関しても、インストラクターから手取り足取り詳細に教えていただき、筋を触るということが理解できるようになりました。

2 日目は、午前中から、前日同様に相互実習で、一連の診査を確認する時間を設けていただきました。頑張って覚えたコマンドの確認や、診査を再確認し、インストラクターからフィードバックをしてもらうことで足りない部分や、より良い手順を指導していただきました。

その後、模擬患者に対しての実技試験が行われ、合否判定へと進んでいくこととなりました。合否判定までの間、小見山先生から、実技試験のフィードバックをしていただき、まさに「鉄は熱いうちに打て」のように即時の反省と 復習により、身に沁みつく内容となりました。筆記試験も行われ、その結果と総合して、紆余曲折がありながら受講者全員の合格となりました。最後に Certificate をいただき DC/TMD 認定セミナーが終了となりました。

DC/TMD を用いて、顎関節症を診断することは場合によっては不十分であると感じることがあるかもしれませんが、この 2 日間で得ることができた診査のスキルは十分に日常臨床に役立てることのできるものであり、是非、機会のある先生方には受講をしてほしいと思えるようなセミナーでした。

このセミナーを開催していただいた、インストラクターの先生方やスタッフの方々に深く感謝を申し上げます。

